

まちづくり懇談会記録

開催日時	令和2年2月10日(月) 午後2時00分～午後3時30分
場 所	黄金多目的研修センター
出席者等	○市民参加者：男性10名 女性 3名 合計13名

会 議 の 概 要

1 開会 【総務部長 司会進行】

2 市長あいさつ

○荻原市長あいさつ

皆さんこんにちは。お寒い中、こうして出席いただきましてありがとうございます。4日から14日にかけて、市内11か所でまちづくり懇談会を開催していますが、大きく2点のテーマについてご意見を交わしていきたいと考えています。

さて、最近の状況であります。新型コロナウイルスが国内はもとより、世界的に拡大しており、ピークはまだ先にあるとされ懸念されているところです。加えて例年になく降雪が少ないことも懸念されるところでございますが、推移を見守りながら必要な対策はしっかりとしていかなければならないと考えております。

また、JRの不通が続いていました芦別富良野間が、野花南の架道橋の改修を終え5日から通常通りの運行となり大変安堵しているところです。

そういう中におきまして、冒頭申し上げましたとおり、庁舎の整備の関係ではありますが、詳細については担当からご説明申し上げますけれども、庁舎は築50年が経過して老朽化が進んでいます。また、耐震性も劣っていて、震度6強で倒壊の恐れがあるという状況であり、耐震性の工事をするのにも相当程度の費用がかかるなど、相対的に勘案した結果、建替えが最善であると考えています。将来にわたって市民の皆様が必要とされる行政機能を果たしていく、防災機能をしっかり保全していくことが求められているわけですが、相当程度の費用が伴いますので、国の助成制度も限りがありますけれども見極めながら、市の財政面も踏まえたくえで検討を加えていかなければならないと思っています。

市立病院に関しては、人口の減少、さらには常勤医師の不在といったことから、厳しい経営環境下におかれているところであります。昨年、厚労省から全国で424の病院、道内においては54の病院を再編・統合の対象とするという公表があり、芦別市もその一つとして対象となったわけです。これは、診療状況が非常に少ないという単発的な視点からの発表であります。開業医も橋本先生一人になったこともあり、市民の皆さんの健康や命を守るということから公立病院の必要性が高まっています。

そうはいつでも、背伸びをするような体制は組めないと思っていますので、今ある医療資源を持ち合わせながら、地域の実態に合わせた医療をつなげていく、基本的には維持・存続させていこうと考えております。

これらのことなどについて、改めて皆様から忌憚のないご意見等をいただきながら、有意義な懇談の場となりますようお願いを申し上げ、開会にあたってのあいさついたします。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 説明事項【担当者より説明】(資料添付省略)

- (1) 芦別市総合庁舎建設基本構想（素案）について
- (2) 市立芦別病院のあり方検討委員会の答申について
- (3) その他
 - ・北森カレッジの本市での実習について
 - ・新型コロナウイルスの対策等について

4 意見交換

○市民

周りを見てひとりしかマスクをしている人がいない。芦別は、そんなに中国の観光客が来るわけではないけれど、発生すると注目が集まってしまう。富良野にも観光に来られないという話を聞いています。

庁舎は令和5年に完成するとなっているが、まちづくりの資料を見て懸念しているのは、毎年350人から400人の人口減が続いていることで、今の庁舎は50年経つということですけど、新庁舎が建って50年後に芦別の人口がどのくらいになっているかを考えると恐ろしく感じます。芦別だけではなく、北海道全体が人口減になるので、令和の市町村合併が起こるのではと予測しています。2000人規模、1000人規模では市町村として行政が持たないのではとの懸念もあり、人口がどんどん減っていく中でどのように考えているのか知りたい。病院もそうだと思うが合併しないと持たないのではないかと、子どもが増えなかったらどうしようもない。市長がよく言う縮充を進めていかないと、箱もの作ってもそのあと誰が入るのかとなると無駄遣いになると感じてしまう。

●市長

お話がありましたように芦別は、年に350人から400人減少していきまして、10年後には4000人ぐらい減少して9300人ぐらい、更に10年後となると機械的には、6500人ぐらいになるであろうとされています。少しでも人口の減少に拍車がかからないように、しっかりと定住・移住対策を含めて、企業誘致を進めていきたいと考えています。芦別は、そういった所が非常に潜在能力が高いと思っていて、自然災害が少ないことがインパクトになると思います。約9割が市有林、山林に囲まれている自治体もあまりなく、山林が果たす役割が環境問題等々から非常に重要視されています。そして、皆さんにもご尽力いただいておりますが、お米やメロンなどの素晴らしい農産物があります。しかしこれは、皆さんの技術の高さもありますが、根底にあるのは大地・自然が享受されていることだと思います。専門家に言うには、8割3分は天候の影響で、残りが技術であると聞いたことがありますけれど、それだけ気候、自然というものが芦別に与えている恵みというものが大きいと思います。

それと芦別温泉は、環境省から道内唯一国民保健温泉地に選ばれており、泉質の優れた温泉とされています。これも自然界からいただいているものです。これらの資源を結合させて新しい価値を生み出すことによって、まだまだ発信性もあるし、人を呼び込んだり、企業を呼び込んだりできるのではと思っています。南海トラフや東南海トラフは、30年後には7割の確率で地震が起きると言われていますけれど、技術関係者なんかもそうですが、ノウハウをそこで消滅するわけにはいかない、安全面機能を担保しなければならないということがあります。上芦別にある大旺鋼球株式会社は、北日本精機にベアリングの材料を納品しています。この大旺鋼球株式会社の本社は大阪にありますが、大阪にある工場を芦別に移設していただくということでもまっています。大阪に行ったときに社長と話をしましたが、芦別が安全・安心だということをおっしゃっていただきました。また、ビックボイスというIT企業も芦別で初めて参入しましたが、ここの社長からも同じようなことをおっしゃっていただきました。芦別にはそれだけ魅力があるということで、このことに関して

決して臆することなく前に発信させていただいて、いい意味での賑わいづくりにつなげていけると考えています。そういう施策を打ち合わせながら、人口の減少に少しでも歯止めがかけられるようにしていかなければならないと思っています。

結論として、コンパクトとあるように身の丈に合ったということがベースだと思います。人がいるうちはまちは潰れませんので、合併は別の議論としてあるかもしれませんが、芦別は、行政面積が広くて空知の端ということから、総合的に勘案したときには建替えであると思っています。いろんな機能面がありますけれど、ベースは人だと思います。まちこそ人であり、人こそ行政だと思っていますので、私はそういった意味から前向きに考えていますので、よく改革と成長と申し上げさせていただいていますが、さまざまところで縮充というお話もさせてもらっていますけれど、これも大事だと思っています。申し訳ないけれど、2つ施設がある場合に1つにさせてもらって、でも機能は低下させないように、サービスを低下させないようにできないかということです。

それから、行政面積が広いので足の確保、これから高齢の方が増えた時に街場に出るにしても運転できないということがあり、そこにどう手当てをするのかというのが大きな課題です。これも単体の自治体で整理する問題ではないと考えており、北海道や国の机上のプランで画一的な制度から脱却していかなければならないと、地域の声を国に申し上げる機会が多いのですけれど、そういった声を普段から伝えながら、霞が関目線を下げてもらい、地域に合わせてもらうということに努力していきます。いずれにしても、総合的な関わりを持ってまちを前に進めていきたいと考えています。

○市民

庁舎に関して、他の施設で耐震性がない施設はあるのですか。

●危機対策課長

他の施設は耐震化が終わっていて、庁舎だけが残っている状況です。

○市民

さまざまな施設がありますが、人口が3万人程度の時に整備した部分があると思います。今の人口規模でいつまで設置しているのか、管理・運営しているだけでお金がかかると感じています。市民サービスもあるところで区切らないと、いつまでも続けられないと感じています。

●市長

施設の維持・管理にはコストがかかりますが、どう補うかというのは、入りが薄まっていくので、縮充という観点から、公共施設の統廃合という視点を持ち合わせて進めなければと考えています。例えば、星遊館は、心臓部の配管等老朽化が進んでいたもので、市民の皆さんにお使いいただく施設として維持するため、2年間で5億をかけて根本的に直さないといけませんでした。この5億は、全額市の負担ではなく、7割は過疎債として元利償還金に対して国の交付税を充てていただけるものとなっています。3割は自己負担であり、約1億5千万を12年間で薄く広く返していくのです。そのような経緯の中で、芦別温泉を今年度末で休止をさせていただこうと思っています。過去、振興公社が指定管理を行っていましたが、現在はホテル&リゾートに管理していただいています。今回の星遊館の改修と合わせて、一階部分を自ら改修し「おふるカフェ」として展開していますが、そういった形と合わせながら出来るだけ星遊館を使ってもらいたいと考えています。同じような施設を維持するのは至難のことですし、管理者も採算的に厳しいということです。当初は、リニューアル後の料金が高くなっていましたが、温泉施設は、市民の皆さんの健康づくり、保養の場としての観点から立ち上げたものであり、市民の皆さんが通える金額にしてほしいと強く要請した結果、回数券を買うと1回分が以前に比べて100円高い600円まで抑えていただいた経過があります。芦別温泉は休止しますが、できるだけ星遊館

を利用していただきたいとして例示をしました。

住民サービスの低下は免れないというような話をいただきましたが、できるだけ市民の皆さんに負担のかからない、サービスが極端に下がらない形で、一方で同じような施設がある場合は統合などをしながら、サービスを受けてもらえるかを工夫しなければいけないと考えています。

○市民

新庁舎ありきで話が進んでいるが、身の丈に合った建物と言って35億円かかります。先ほど言われていたように3万人いた時代に建てられた庁舎なので、構想では面積を縮小しているが、私は、今ある建物の中でできるのではないかと考えています。

例えば、福祉センターや元の西村病院、青年センターなどを活用するなど、分散して市民に迷惑をかけるかもしれないけど、今ある施設の中で整備するべきだと思います。いくら補助があるとしても、人口が大きく減る中で市民に負担をかけることはしない方が良く考えます。市が持っている建物の中で活用できるものがあるのではないのでしょうか。あまりにも大きい金額で、建替えありきで話しが進んでいるのではないかと考えています。数少ない若者に負担になるようなことはしてほしくないと思います。

ふるさと納税を財源に入れているという説明だが、新聞によると去年は5億円に達したとなっています。ふるさと納税がどこまで芦別に合ったものかわかりませんが、市の職員だって優秀な人がたくさんいるので、知恵を出し合って全国に散らばっている芦別ファンというかそういう人たちに協力いただけるような発信をしてほしいと思います。芦別をPRする方法はもっとあると感じています。農産物や芦別産品をもっと発信すれば、理解してくれる人はいるはずで、ぜひ、全国に芦別をもっと発信してほしいと思います。

●市長

庁舎について、施設分散型にして既設の施設を活用する方法があるのではということでした。将来展望に立つとそういう発想も大事かと思っています。しかし、市民の皆さんからすると不便さが伴うという実態であり、高齢化が進んでいる中、庁舎を分散することは、機能的にどうかということがあります。また、担当から説明したとおり、福祉センター横に建設した際には、福祉センターに部屋が多くありますので、ドッキングして部屋を活用するなど、できるだけコンパクトな庁舎とするよう改めて考えていきます。

先ほど星遊館の事業について過疎債の話をしました。庁舎の整備は適用になりません。資料の中で説明した制度は、令和2年度中に実施設計に入れば適用になるもので、平成29年度から4年間の時限措置とされています。東日本大震災等の災害で、役場機能がパンクしたことを受けて、庁舎の建設にノータッチだった国が支援するため、役場機能緊急保全事業として措置されました。そういった背景があり、何もしないのは行政の不作为ですので、結果として間に合う努力はしたいと思いますが、そういう背景があることをお知らせします。したがって庁舎建設に関しては、8割が自己負担となります。

この8割を起債として償還していきますが、令和5年に完成したとして、三年据え置いて25年間で返していくこととなります。その財源をどう生み出すのかとなりますが、カナディアンワールドの償還が令和8年で終わります。1億7千万を皆さんからご負担いただきながら償還しております。お話の中で後世に大きな負担を残さないでほしいと言われていました。1億7千万の償還が終われば、一般事業に入れるのですが、やはり庁舎の問題を棚に上げることはできないことから、庁舎の事だけを申し上げると、令和5年に完成したとして、三年据え置いて令和8年から償還が発生することになり、ある面では1億7千万をそちらに向けさせていただきたい。単純な話ではないことは承知しますが、財源措置を全く考えていないわけではないことをお伝えしたいと思います。今後とも芦別の財政を考えたいうえで、後世に負担を残さないようにしていかなければと思います。

ふるさと納税はこれまで3億2千万ぐらいが最高でしたが、このうち9割強は日本ソウイングの銀座山形屋の紳士服仕立券となっています。先ほど、芦別にはまだまだPRするものがあるとありましたけれど、私どももそういった品数を揃えて訴えています。芦別を発信するためにポータルサイトにも登録しており、今まで2つだったものを4つにしたりしてオファーが増えた実績もあり、今年はもう一つ増やそうかと思っています。そういった発信のために、費用はかかりますが媒体を広く使って、農産部等のPRを図りながら、ふるさと納税の強化に努めていきます。

○市民

お願いになりますが、星遊館と昔からある芦別温泉は客層が違うと思います。新しくなった星遊館は素晴らしいと思う反面、一日いないと値がないと感じているが、90分の時間制限があるとゆっくりできません。そう考えると星遊館は、高齢者向きではなく、私もどちらかという芦別温泉に入ることが多く、休憩できる座敷もあるので冬場は高齢者も多いです。芦別温泉は一体いくら赤字で、どのくらい市が負担しているのでしょうか。赤字だったら料金を値上げしてでも存続させてほしいと思います。

また、副市長が会長となっている公共交通について、この間の会議でも聞きましたけど、芦旭線が4便となっていてあまり人が乗っていない状況で、中央バスによると1千4百万ぐらい赤字とのこと。赤字でも運航してもらえないのはありがたいことですが、中央バスでは赤字よりも運転手の不足に困っているということです。長い目で見ると存続は難しいかもしれないので、スクールバスが動いていることから、付近の市民がスクールバスを利用することができないかと、これもお願いになりますがよろしくお願いします。

○市民

私も検討してほしいことがあります。高校の事で、これまで総合技術校が廃校になり、芦高が間口減になっているけれど、その対応策が全て後手になっていると思います。道から方針が来てからどうするかと、決まってから来ているのにどうにもならない状況で受け入れてしまっています。今の小学生は2学年あるかないかの状況で、高校に行くときに何人残っているのかということです。なので、今の間口を維持する、特色ある学校にするために、学校長を公募するなど頑張る校長を探してはどうでしょうか。

○市民

市民が8000人になると言ったことに関して、それをシミュレーションした時に芦別の形態がどうなっているのか、農業がどういう位置にいるのか、北日本精機を含め大旺鋼球などの優良企業の位置づけをどういう風に考えているのか、お金がないというけれど、8000人が8500人になるような対応策、そういうところに雀の涙かもしれないが支援をしてほしいと思います。また、新聞に出ていたが、タングロンは決して経営難でやめるわけではない。施設の改良、社長の高齢化のため3月末でやめることになることになりました。他に例のない企業で人気があるものなので、芦別市として対応策を出して残すことができないか検討してほしいと思います。

病院に関しては、まず市民から愛される病院になってもらいたいです。風評被害かもしれないが、あそこに行ったらとんでもないから、他の病院に行くという声を聞きます。そういう風評が出ないような愛される病院になって欲しいと思っています。私も何度か時間外に電話したことがあって、そういう患者は受け入れられませんと断られたことがあり、赤平に電話したら来てくださいと言われたことが過去にもありました。市民に愛される病院になっていただきたいです。

●総務部長

今ほどのことに関しては、市長の挨拶の中で触れさせていただきます。

○荻原市長あいさつ

最後まで熱心にお聴き取りいただきありがとうございました。多くの意見をいただきましたが、最後にお問い合わせ等がありましたので、そのことに触れながらお礼の言葉を申し上げたいと思います。

一つは芦別温泉についてで、利用者層が違うという話があり、その中で星遊館の利用制限時間が短いとありました。このことについては、他会場でもお話をいただきましたので、その思いを指定管理者に伝えたいと考えています。合わせて芦別温泉については、数字の部分の持ち合わせがないので欠損についてお伝えできませんが、将来の維持管理については避けられない状況です。ですから、総合的に考えなければならないということで、これからのまちづくりを進めるためには、皆さんの声を幅広くいただいて、全部を用意することができませんと言わざるを得ないのですが、どう折り合いをつけていくか、例えば時間のことをもう少し頑張るとかはできると思います。その辺のところは、どう答えを出せるかわかりませんが、努力はさせていただこうと思います。そういう話をこれからもさせていただこうと思っています。

芦旭線の関係は、スクールバス等も含めて、これからどうやって足の確保を図っていくのかは研究課題だと思っていますので、そんなに長い話ではなく、町内会を含めてしっかり議論を深めていきたいと考えています。

芦高の問題に関して芦別市の立場では高校問題協議会を持っており、私が会長を務めておりますが、今回も2間口80人の定員に対して申し込みが56人という状況でした。前々の年の募集から3間口に満たず2間口となっていて、分析しますと芦別の高校もそうですが、滝川に行く方が多くなっています。芦別高校に来てほしいと、通学費の補助とかの支援策も設けています。それでもなお、増えない状況にあっては、特色性とありましたが、なぜ市外にいかないといけないのかというところを専門部会を立ち上げまして、教育長をトップとして芦別高校の先生も入っているはずなので、どうしたら芦別高校に来ていただけるかを深く掘り下げて研究しましょうと議論しています。芦別高校は、唯一の公立高校ですので、通っていただける体制・意識をどう皆で作っていけるのかが重要だと思っています。指導面において公募制で頑張る校長とありました。現在の校長は熱心な方であり、大事なものは後手に回らずに芦高だけではなく、地域や行政と一緒に前に進めていく努力が必要だと思っています。

また、企業に対する支援はしっかりと対応していきたいと思っています。行政にとって雇用というのは財産であり、そこに対する支援策は、就職に対する手当、設備に対する手当等、様々な範囲で可能な範囲でさせていただいています。ただ、私は行財政改革を推進していますので、これもある程度集約といいますかコンパクトにさせていただきました。企業振興協議会の皆さんと議論をし、抵抗もありましたが、最後は折り合いを付けさせていただきました。全体的なレベルは下がりましたが、頑張りましょうということで、支援策は残っていますので、維持・存続を図りながら企業の皆さんに対応させていただきたいと考えています。また、芦別高校を卒業したときに、同じような企業があるのにどうして芦別に就職しないのか、本人の考えもあると思いますが、そういうところも企業とスクラムを組んで、芦高や道内の高校のほか、大学を含めて説明会などを行っていかねばならないと考えており、総力を挙げて企業の振興、雇用の確保のためにも進めていきたいと思っています。

タンゲロンについてですが、所管の職員は頑張ってくれました。事業継承を受けたいという方は何人もいました。50年以上続くあれだけ素晴らしいものは芦別の財産で、札幌等の都会で評判も高いものですが、途絶えるのは断腸の思いです。何とか繋いでいただけないかと現場からもお願いしましたが、社長が私の代でということでした。そういうことで、事業継承したいという声があっても、行政として繋ぎきれなかったのは残念でありま

す。話を聞くと、タングロンのパッケージが製造できないようになってきていて、変わるものに資本投下が必要などの事情もあるようで、これは本人の判断なので、受け継ぎたい人はいるけれど断念せざるを得ないということでした。

愛される病院にならなければとお話をいただきました。愛されるということは、支持をされるということで、市民病院としての体をなさないといけないわけですから、そのために、いろんなご批判もあるかもしれませんが現場は頑張っています。そういった声に応えるために、ずいぶん変わってきていると感じています。しかし、まだまだご批判をいただいていますので、謙虚に受け止めさせていただいて、一人でも市立病院が背中を向けられないように関わりを深く持たせていただきたいし、逆にどんどん発信していただきたいと思います。芦別は、滝川や砂川に行くのに距離が遠すぎるため、芦別で救急の受け入れができなくなると大変だと感じています。救急を受けられるのは、内科、泌尿器科、循環器科しかなく、常勤医師が6人しかいませんけれど、あることによって安全・安心に繋がっていきますし、できるだけ持っている医療資源の中で、市民の皆さんの安全・安心を守っていくのが使命だと思っています。

説明にもありましたが、あり方検討委員からの答申で事業管理者を置くというものがありません。現在、私が病院事業会計のトップであります。予算面、人事面を市長から移譲して事業管理者に運営してもらい、関与をしないこととなります。病院本体で経営をやっているということ。そうすべきではないかという答申であります。これは、非常にインパクトがあると思っています、それについて判断をしなければと思っています。経営アドバイザーや委員会等からは、フルスペックは無理なので、中空知の病院と連携しなさいと言っているの、限られた範囲の中で対応しますが、持ち得ていないものは他の力を借りなければならない、そのことが市民の皆さんの医療の安心な提供に繋がっていくと思います。大事なことは、国民、道民、市民はイコールなので、どこの住民であっても医療格差があってはならないことから、地域でできることは精一杯させていただきますけれど、できないことは他の地域と連動しなければならない、そういった形の中で支え合うことをこれからも考えなければならないと思っています。

この4月から令和11年にかけて、10か年のまちづくりの指針となる第6次総合計画がスタートいたします。将来像は、芦別市民憲章としてご唱和いただいている「みんなで築く 豊かで住みよい 人と文化の輝くまち」と掲げており、令和2年度の予算も大詰めとなっておりますが、この計画が一步でも前に進んでいけるような予算編成に努めて参ります。

これからも、小さくはなるかもしれませんが、人もまちも輝けるまちづくりにつなげていけたらと思っています。そのためには、行政一人だけではできません。皆さんの力がなければまちは進んでいきませんので、全体でワンチームという言葉のように、そんなまちづくりができればと考えていますので、今後とも支援とご協力をお願いしたいと思います。

気象台によりますと、12日から4日間、気温がプラスになるということです。今週は気温が低かったため、急に気温が上がることとなりますから、体調管理には十分ご注意ください。ますますのご健勝を祈念しながら、閉会に当たりましての挨拶とします。

5 閉会

以 上